

■ 御神霊について

本書では、地上を担当する御神霊についてのみ具体的に解説します。

5 【地上を担当する御神霊とは】

地球担当の四十八の神の48名と、国津神から現津神までの神々が、地上を担当する御神霊です。

10 【人間を指導する役割を持った御神霊について】

地上を担当する御神霊のうち、国津神から現津神までの、153億612万2400名の神々は、人間を指導するために生まれた神です。

平成21年11月末現在、肉体を持った人間が存在して、地上天国文明の建設計画が進められているのは地球だけなので、国津神と現津神は、地球にだけ存在する神ということになります。

平成21年5月17日以降は、龍神が国津神に神上がりして、更に612万名の御神霊が加わりました。

また、現津神の子の代の結婚が許されるようになりますので、御神霊の数は今後ますます増えていきます。

【御神霊の役目】

① 神の世界と同じような素晴らしい世界を、人間が物質で地上に建設する手助けをすることです。

人間の力だけでは天国文明の建設には力不足なので、夢や閃きによって高度なアドバイスを与えて、力添えをすることです。

① 天国文明の住人に相応しく霊格を向上させる仕組みを与えることです。

30 **御神霊と人間との関係は、霊力や魂の大きさは大幅に違うけれど、“質”は同じです。『神』の御計画を成就するためのお役目という意味では、“同等”なのです。**

35 【御神霊の罪】

- ・ 神界の地獄に押し込められている御神霊に共通する罪は、『神』から与えられていた本来成すべき目的や、自分自身が『神』の子である事を忘れてのことです。
- ・ 同時に、ほとんどの方が、自身が神界の地獄に押し込められている理由が判らない状態で苦しんでいます。(上記の内容は、御神霊を救う上で重要なキーワードです)
- ・ 苦しみの理由が解らないため自暴自棄になってしまい、人間界に大きく障りをもたらしている方もいます。
- ・ 御神霊でも、男性と女性とでは犯した罪が異なります。《65頁・66頁》にて解説